

IV 「情報ボランティア」の活動の広がり

1. 「栃木県メディアボランティア」の活動事例

[小中学生の情報ボランティアを養成](#)

(子どもたちのボランティア体験学習と異世代間交流に一役)

[障害者支援のパソコンボランティアにも参加](#)

(情報弱者・デジタルデバイドの解消に一役)

①子どもパソコンボランティアの養成（子どもゆめ基金助成事業）

「栃木メディアボランティア」は、毎週土曜日の午後1時30分から2時間「初心者のためのパソコン無料相談」という定期的な活動を実施してきたが、その活動に広がりを見せている。

ひとつは年齢的な広がり。この団体のメンバーは、大学生から60代までの成人30名程度の団体だが、小中学生のパソコンスキルの高さに注目し、平成15年度は、「子どもパソコンボランティア養成事業」を実施した。

小中学生が、学校で学んだ知識を活用し、パソコン初心者を支援する子どもによる情報ボランティア活動である。日頃、地域や学校や家庭において、年長者から教えてもらうことがほとんどの小中学生が、立場が逆になり高齢者の人たちに教えるという体験をした。家庭に普及するようになってまだ日が浅いパソコンは、そのスキルの度合いが年齢とあまり関係がないものである。平成15年度版情報通信白書によると、「世代別のインターネット利用率においては、若年層と高齢層の利用率の格差が大きい。例えば、60歳未満はいずれの世代も50%以上の利用率であるが、60歳以上では16.2%と利用率は大幅に減少する。」と報告されている。つまり、小中学生より、60歳以上の人たちでは、パソコン等の情報機器に慣れていない人が多いこととなる。

また、小中学生と成人の異世代間交流を、パソコンというものを媒体として行うことができた。日頃、話す機会の少ない子どもと大人が、いつもとは立場も逆になり子どもたちの話を聞き、質問をするというふれあいの場が生まれた。単に、パソコン初心者がパソコンの技能を高めるという意味でも、小中学生に対してなら恥ずかしくなく初歩的な質問ができるというメリットもあった。

・「子どもパソコンボランティア養成事業」

「パパとママとわたしのパソコンお絵かき教室」

小学6年生と中学3年生が交替でメイン講師

平成15年7月20日（祝）

栃木県総合教育センターの開放事業「学びの杜の夏休み」にて開催
お絵かきソフトを使っての、親子によるパソコン講座



「年賀状づくりは わたしたちにおまかせ！」

小学3～6年生と中学3年生がサポートボランティア

平成15年12月4日（土）

独自に募集し、栃木県総合教育センターを会場に開催。

ワープロソフトを使って、年賀状の裏面を画像付きで作成するパソコン講座



「子どもパソコンボランティア養成事業」に参加した子どもたちの感想

小学生の感想

- ・自分でパソコンについてわからないことがたくさんわかった。
- ・人に教えたり、教えられたりして、いい経験になりました。
- ・説明をするのが、難しいところはどう説明したらいいかをよく考え、きをつけようと思いました。
- ・自分の地域を楽しくできるようなボランティアをしたい。

中学生の感想

- ・日頃あまり交流のない高齢者との交流ができて楽しかった。
- ・ボランティアというかたぐるしいイメージが、実際にやってみると気軽にすることができた。
- ・教える立場になり、その難しさがわかった。
- ・教えているつもりが、逆に教えられることがあった。
- ・いままでに使ったことのないソフトの質問に答えることができてよかった。
- ・自分にはできて相手にできないことをどうやれば伝えられるか気がつけた。
- ・高齢者とたくさん交流ができ、人の役に立つボランティアをしてみたい。

参加した子どもたちは、自分たちが持っているパソコンに関する知識・技能が、パソコン初心者の人たちの助けになることに気づき自信をつけるとともに、一方では、人に教えることの難しさを理解することにもつながった。

また、ボランティア体験により今後も続けたいという希望もでて、ボランティアセンターに登録をした小学生もいる。

②障害者支援のパソコンボランティア

もう一方で、活動内容にも広がりが出た。別のパソコン関係のNPOにも参加している会員の呼びかけで、そのNPOが平成15年度県の委託を受け実施した障害者支援のパソコンボランティア養成研修及び派遣事業に希望し、10人以上の会員が参加している。

たまたま、その事業を受託したNPOの会員が団体内にいたことと、その養成研修が、日頃パソコン相談に使用している総合教育センターを会場に実施されたということも、参加希望者が多かったことの原因のひとつである。

「初心者のためのパソコン無料相談」を中心に活動を展開しているが、パソコン相談の実践を重ねることで、会員のスキルアップと自信にもつながり、また、徐々にではあるが活動が知られるようになり、講座開催の依頼やサポートボランティアの依頼も寄せられるようになった。